

薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2019年
7月3日
第68号



ケンポナシ (クロウメモドキ科)

園内の池の東側で、白くて小さい花がたくさん咲いています。日本の他、ヒマラヤから中国、朝鮮半島の山野に生える落葉高木です。秋に熟した実の匂いから「ナシ」の名があるようですが、私はまだ嗅いだことがありません。バラ科の「ナシ」とは違い、果実とともに、果実が茎から分枝する果柄も食します。果柄も糖類を含み、実際に甘いです。しかし、10月頃に見られるその姿は、肥厚した不思議な形に怪しげな印象を受けます。薬用部位も果実を含む果柄で、生薬名は「枳椇子(きぐし)」ですが、日本ではそのまま「ケンポナシ」で流通することが多いです。『本草綱目』に、酒毒を消す、止嘔と記載されています。身近なところでは、本品の抽出物を原材料の一つとして使用しているチュウインガムがあり、パッケージには「息スッキリ」と表示されていますが、口臭をとってくれるのかな？

ヒロードモウスイカ (ゴマノハグサ科)

園内の各所で大きな姿を見ることが出来ます。別名をマレイン、ニワタバコ、バーバスカムとも呼ばれ、欧州、地中海沿岸が原産地で、明治期に渡来しました。漢字表記は「毛蕊花」(もうずいか)で、「しべ(蕊)に毛が生えている花」、全草ヒロードのような毛でおおわれています。紀元前後にまとめられたディオスコリデスの『薬物誌』に登場する薬用植物で、ヨーロッパでは古代からこの植物の葉のエキスを鎮咳、去痰目的で利用してきました。また、打ち身による炎症や関節痛に対して、葉の植物油で抽出したものを外用薬としても利用されてきました。最近では、育毛剤としても利用されているようです。

今、こんな草木が楽しめます！！